

話し言葉における代名詞「あれ」の用法 —母語話者と学習者の違い—

山崎 誠 (国立国語研究所研究系言語変化研究領域)

1. 「あれ」は話し言葉で多く使われる

表1 コーパスにおける代名詞「あれ」の頻度

コーパス	粗頻度	相対頻度 (PMW※)
現代日本語書き言葉均衡コーパス	12,413	118.3
日本語話し言葉コーパス・学会講演	228	69.1
日本語話し言葉コーパス・模擬講演	1,032	283.8
日本語話し言葉コーパス・対話	113	750.8
名大会話コーパス	2,438	2,153.8
職場談話コーパス	410	2,193.6
日本語日常会話コーパス (モニター公開版)	1,657	2,712.1
多言語母語話者の日本語学習者コーパス (I-JAS)・対話 (学習者+母語話者)	479	299.9
BTSJ日本語自然会話コーパス2018年版	1,574	1,705.9

※ pmwは100万語当たりの頻度

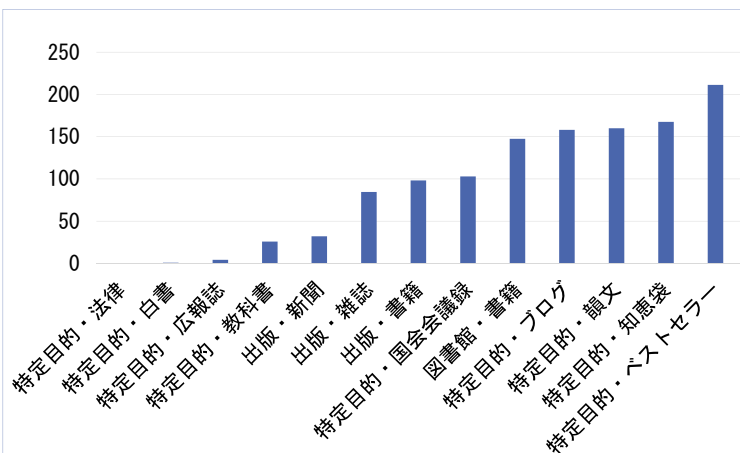


図1 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の各レジスターにおける代名詞「あれ」の頻度 (PMW)

2. 代名詞「あれ」の用法

日本語記述文法研究会 (2006) の分類

①現場文脈指示

- ・発話の現場の状況が参照される。
- ・指示対象は話し手がその場で見たたり聞いたたり感じたりできる。

②言語文脈指示

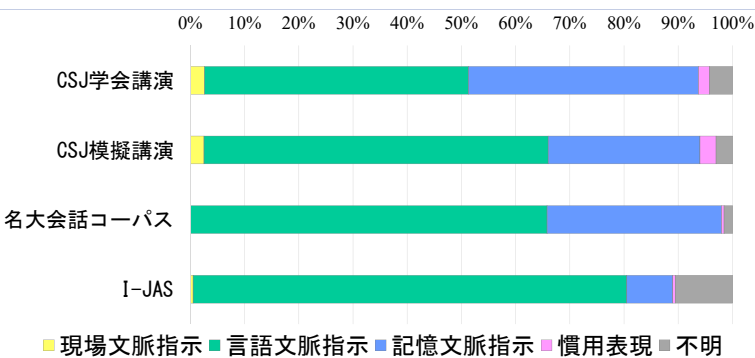
- ・談話の中の言語化された部分が参照される。
- ・言語文脈には前方照応と後方照応がある。

③記憶文脈指示

- ・話し手や聞き手の長期の記憶が参照される。
- ・聞き手も知っている場合が多いが、話し手しか知らない場合もある。

日本語記述文法研究会 (2006) 『現代日本語記述文法7 第12部談話 第13部待遇表現』くろしお出版

4. 結果



- いずれのコーパスでも②言語文脈指示, ③記憶文脈指示の2つの用法で全体の大半を占める。
- ①現場文脈指示はほとんど用いられていない。

5. 母語話者と学習者の用法の違い(1)

- 日本語学習者の言語文脈指示の用法が日本語母語話者よりも多い。ただし、「それ」との混同と思われるものも目立つ。

(1) <C> (中略) 日本のまあ、本とか、読みますか? #<K>に一最近読み、読むようになったんです、前は全然読まなかったんです<C> <うん> <K>、意味は全然通じなかったんです<C> <うんうんうん> <K>、はい、で何できょう子供の教育を、の本を読みましたかとゆうと、あれは内容はちょっとわかりやすいから、短いだからちょっと <ふーん>、わかりやすいから、(後略) (I-JAS, JJE15-I, 340)

本発表は、国立国語研究所のプロジェクト「大規模日常会話コーパスに基づく話し言葉の多角的研究」(プロジェクトリーダー・小磯花絵) および日本学術振興会・科学研究費補助金「会話文への発話者情報の付与によるコーパスの拡張」(15H03212) による成果である。

3. データと方法

➢ データ

『日本語話し言葉コーパス』(CSJ)の学会講演と模擬講演
『名大会話コーパス』
『多言語母語話者の日本語学習者コーパス・日本語学習者の対話』(I-JAS)

➢ 方法

検索ツール「中納言」を使い、それぞれのコーパスから「あれ」をランダムに200件を選び、左記の①～③の用法を付与した。「あれこれ」などは④(慣用用法)とした。

➢ 用法の認定方法

- ①の現場指示の用法: 現場指示の用法を引用の形で語ったものを含む。ただし、例文を読み上げているようなものは除外。
- ②言語文脈指示と③の区別: 「あれ」の前文脈にその指示対象ないしは指示対象とみなすことのできる言語表現が現れていれば②, そうでなければ③とした。

6. 母語話者と学習者の用法の違い(2)

- 言語文脈指示の用法では、母語話者は前置きの後方照応を用いることがあるが(名大会話コーパスで20例), 日本語学習者はそれをほとんど用いていない(I-JASで1例)。

(2) #このドアもちょっと固め。#ああ、あの、固めて、雨が降って湿度あると下が、あのあれじゃない、膨れるんじゃない、それ。(名大会話コーパス, data118, 3370)

- 日本語学習者の後方照応で多いのは「あれは何だっけ」「あれは何だろう」のように自問しているような場合である。
- (3) <K>そして一、先生は一、すごく一、あ一、なん、あれは何だっけ一、お、怒る? #<C>うん#<K>すごく怒ります、ん#<C>うん#<K>あ一、怒りました一#<C>うん# (I-JAS, CCT60-I, 6460)

- 記憶文脈指示の用法では、「はっきり口にしたいくないこと、ちょっと忘れたこと、うまく言えないことなどの代りに用いる」(「新明解国語辞典第七版」より)の用法が母語話者では比較的良好に使われているが学習者では使用割合が少ない。
- (4) であの家族とあんまりいっぱい旅行に行く機会がないもんですからあの一の子供長女と次女とそれから主人とその三人を連れていきたい#三つて言ったらあれなんですから#三人を連れていけたらなと思いました# (CSJ模擬講演, S07F1336, 2100)

7. まとめ

- 代名詞「あれ」は話し言葉で多く使われ、その用法は言語文脈指示と記憶文脈指示に偏っている。教科書で習う現場文脈指示はほとんど使われない。
- 日本語母語話者と日本語学習者との比較では、指示対象が文脈にない用法(婉曲的な用法)や指示対象が直後の後文脈に現れる、いわば前置きの使われている用法が日本語母語話者に比べて少ないことが分かった。